

IAUD Newsletter vol.11 第5号(2018年8月号)

- 1.「第1回定例セミナー／IAUD 国際デザイン賞 2018 説明会」開催報告…………… 1
- 2.「第2回 IAUD 住宅学生コンペ」開催のご案内…………… 7
- 3.「第13回 48時間デザインマラソン ワークショップ in 東京」参加者募集のご案内…………… 7
4. IAUD 8月の予定…………… 8



持続可能な共生社会の創造を目指して

「第1回定例セミナー／IAUD 国際デザイン賞 2018 説明会」開催報告



「2018年度第1回定例セミナー／IAUD 国際デザイン賞 2018 説明会」会場の様子

今年度より「IAUD アワード」から「IAUD 国際デザイン賞」と名称を改め、募集を開始した「IAUD 国際デザイン賞 2018」について説明する「2018年度第1回定例セミナー／IAUD 国際デザイン賞 2018 説明会」が、7月20日(金)にインターナショナル・デザイン・リエゾンセンター(東京・赤坂)で開催され、応募に関心のある方やIAUD会員、メディア関係者など52名が参加しました。

当日はIAUD 国際デザイン賞 2018 審査委員会から賞の本質的目標や審査体制についての説明があったほか、IAUD アワード 2017 受賞者によるプレゼンテーションや、2019年3月に開催予定である「第7回国際UD会議」の案内もありました。

さらに、「2018年度第1回定例セミナー」として、経済産業省商務情報政策局商務・サービスグループクールジャパン政策課長の三牧純一郎氏による講演「デザイン政策について」も行われ、大変内容のある充実したものとなりました。

今号のNewsletterでは当日の様子を報告します。

■「IAUD 国際デザイン賞 2018」説明会

まずは IAUD 国際デザイン賞 2018 審査委員会より、「IAUD 国際デザイン賞 2018」についての説明がありました。

なお、会場の情報保障については、江戸川聴覚障害支援センター手話通訳部による日本語手話通訳と、会話の音声を書字にするアプリ「UD トーク」を試験的に導入し、会場スクリーン右側に会話が表示されました。

初めに、川原啓嗣審査委員（名古屋学芸大学院教授／IAUD 専務理事）より、海外での知名度を高め、さらに国際的に通用するために名称を「IAUD 国際デザイン賞」に改めた経緯や、本審査会の様子の紹介がありました。

また、「表彰式・プレゼンテーション」は、2019 年 3 月に行われる「第 7 回国際 UD 会議」に合わせてタイの首都バンコクで実施する、と案内がありました。



川原審査委員

次に、益田文和副審査委員長（(株)オープンハウス代表取締役）より、過去 8 年間の持続的な発展そして更なる飛躍に向け、社会状況の変化に合わせて、新たに設定された以下の 6 つの審査基準に関し具体的な解説がありました。



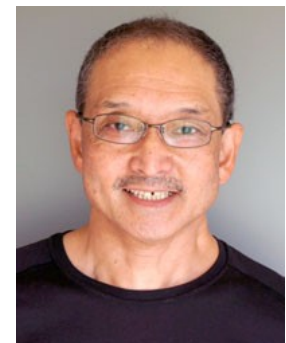
益田副審査委員長

- ①斬新で躍動的な、UD の新境地を開くものであること：新しい時代を生きていくために何にどうコミットしていくのか、について大きく提案してほしい
- ② 市場から排除されがちな障害者等との密接な関係を基にした質の高いユーザー中心の研究が認められること：ユーザーと一緒に考えていく
- ③特定のユーザーグループが技術革新から取り残されないよう配慮されていること：技術革新によるデメリットに対しても躊躇しなければならない
- ④多様なユーザーグループに属する特殊な問題を捉え解決策を提供するなど、従来の「ユーザビリティ」を超える提案であること：デザインがどのような問題に対しどう解決できるかを重視
- ⑤企業の全社的なビジョンと継続的な改善計画に基づいた UD への長期的組織的実践が示されていること：企業が持っている知見技術やシステムをメッセージとして伝えていく
- ⑥誠実で説得力のある説明資料に裏付けされていること：批判性も含め、正当に評価された情報を提供する

また、荒井利春審査委員（金沢美術工芸大学名誉教授）からは、審査は基準に合致しているかどうかだけでなく、応募案の中の価値について審査員が意見を交わしながら行っている、と話がありました。

そして、そのような自由な討議を通して決定する過程を大事にしておき、その討議をもたらす元は応募作品から生まれ、審査する側と応募する側双方のベクトルで形作られているとし、「IAUD 国際デザイン賞」は UD の新たな次元を相互に切り開く創造的な営みである、と述べました。

さらに、質の高い UD を推進・実践するためには、ユーザー参加型



荒井審査委員

デザインワークショップが大切であり、「IAUD 国際デザイン賞」の審査基準の内容にも関わっている、としました。

そして、ユーザー参加型デザインワークショップの可能性と重要性について、新しいデザインの原型を創出できるだけでなく、営業や企画・設計等のメンバーも参加することで、質の高い製品開発を迅速に実現するコンカレントなデザインワークもできる、と述べました。

最後に、応募を検討している参加者から質疑応答も行われました。

※「IAUD 国際デザイン賞 2018」第 1 次審査応募締め切りは 8 月 31 日(金)です。皆様の応募をお待ちしております。詳細はこちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/award/9871/>

■IAUD アワード 2017 受賞者プレゼンテーション



IAUD アワード 2017 受賞者 4 組によるプレゼンテーションが行われ、応募に至る経緯や受賞した取り組みの紹介、応募で苦労された点や受賞後の反響等の発表がありました。

大賞、金賞の取り組みの詳細は過去の Newsletter をご覧ください。



登壇する(株)パナソニックの中尾氏

・大賞「パナソニックの UD コミュニケーション」
パナソニック株式会社

発表者: パナソニック株式会社デザイン戦略室 中尾洋子氏

<https://www.iaud.net/newsletter/9754/>

・金賞「障がいを持った方が快適に利用できる三菱エレベータータッチパネル式乗場登録操作盤」 三菱電機株式会社

発表者: 三菱電機株式会社デザイン研究所 山崎聡氏

<https://www.iaud.net/newsletter/9803/>

・金賞「おもちゃのユニヴァーサルデザイン『共遊玩具』の開発と活動推進のための仕組みづくり」 タカラトミーグループ

発表者: 株式会社タカラトミー社会活動推進課 高橋玲子氏

<https://www.iaud.net/newsletter/10080/>

・銀賞「Morisawa BIZ+ ～だれもが使える UD フォント～」 株式会社モリサワ

発表者: 株式会社モリサワ流通ビジネス推進課 長武史氏

■2018 年度第 1 回定例セミナー

各省庁や自治体関係者の方々を講師にお迎えし、UD に関する政策や課題などについてお話いただく「定例セミナー」では、経済産業省クールジャパン政策課長の三牧純一郎氏をお迎えし、講演「デザイン政策について」が行われました。

政府が取り組んでいるデザイン政策の概要や、デザインによってブランド力とイノベーション力を向上させる『デザイン経営』宣言など、非常に貴重で有意義なお話がありました。以下に講演概要を掲載します。



経済産業省の三牧氏

デザイン政策の歴史

1950 年代後半に戦後のデザイン政策がスタートしました。当時は日本企業による欧米製品の模倣が問題化しており、「G マーク制度」の設置など、デザインの盗用防止や普及啓発を重視した政策が主要でした。

2000 年代以降は、新興国の台頭による日本の国際的な産業競争力の低下を受け、デザインの戦略的活用を即す政策が推進されています。

デザイン政策の概要

①調査研究

第 4 次産業革命時代におけるデザインの重要性や、デザイン思考を活用した経営の実態など、多様なテーマで調査研究を実施し、報告書を公表しています。

②後援・顕彰

「グッドデザイン賞」：日本で唯一の総合的なデザインの評価・顕彰制度で、製品、建築、ソフトウェア、システム、サービスなどのデザインが対象。1957 年に旧通産省が創設した「グッドデザイン商品選定制度」を継承しており、1998 年に民営化され現在は公益財団法人日本デザイン振興会が運営しています。

「キッズデザイン賞」：子どもや子どもの産み育てに配慮したすべての製品、空間、サービス、活動、研究を対象とする顕彰制度。2006 年に NPO 法人キッズデザイン協議会が創設しました。

③活用促進

ローカルクールジャパン：地域の特産品や観光資源などを海外市場向けに発信し、地域活性化を促進。個社事業を支援しながら、全体を 1 つのローカルクールジャパンとしてブランディングし PR を実施しています。

中小企業向け支援制度の拡充：中小企業が研究開発や事業化に向けた支援を活用できる「特定ものづくり基盤技術高度化指針」に、「デザイン開発」技術の追加や、デザイン思考・アジャイル型の研究開発の重要性を明示しました。

デザイナーデータベースの整備・運営：日本のデザイナーと国内外の企業等のマッチングを促進するため、日本のデザイナーと作品情報を掲載したデザイナーデータベース「JAPAN DESIGNERS」を整備しました。

④その他

その他、日本のデザイン政策や地域のデザイン振興施策などに関する情報を編集した「デザイン政策ハンドブック」の発行などを行っています。

「デザイン経営」宣言とは

これまで日本企業は、ハードウェアとエレクトロニクス分野で世界をリードしてきました。

しかし、世界の主戦場はソフトウェア、ネットワーク、サービス、データ、AI 分野に大きくシフトしています。これらインターネットに接続された製品やサービスは、顧客体験の質がビジネスの成功に大きな影響をもたらしています。

そして、デザインは顧客と長期に渡り良好な関係を維持するためのブランド力の創出手法、顧客視点を取り込んだイノベーションの創出方法、として活用されるようになりました。

デザインは産業競争力に直結するものとなり、デザインに注力する企業が急速に存在感を高めています。

そこで、デザインによる日本企業の競争力強化に向けた課題の整理と対応策を検討するため、経済産業省と特許庁は 2017 年 7 月に「産業競争力とデザインを考える研究会」を設置しました。

2018 年 5 月には同研究会の報告書として『「デザイン経営」宣言』を公表し、デザインによってブランド力とイノベーション力を向上させる「デザイン経営」を奨励しています。



熱心に三牧氏の講演に聞き入る参加者

「デザイン経営」2つの効果

ブランド構築に資するデザイン：企業が大切にしている価値や、それを実現しようとしている意思を表現。それを顧客に一貫したメッセージとして伝えることで、他の企業では代替できない「ブランド価値」が生成されます。

イノベーションに資するデザイン：人々が気づかない潜在ニーズを、企業が実現しようとしている価値に合わせ、事業化を構想します。

欧米での研究によると、デザインへの投資を行う企業が高いパフォーマンスを発揮していると、しています。

デザインを企業の経営戦略の中心と捉え、「デザイン経営」を実践している企業には、アップル、ダイソン、良品計画、マツダ、メルカリ、Airbnb などの BtoC 企業（一般消費者を顧客とする事業）のみならず、スリーエムや IBM などの BtoB 企業（法人を対象にした事業）も存在します。

ここで、「デザイン経営」と呼ぶための必要条件は、以下の 2 点です。

- ①経営チームにデザイン責任者がいること
- ②事業戦略構築の最上流からデザインが関与すること

「デザイン経営」実践する 7 つの取り組み

「デザイン経営」を実施するためには、以下のような取り組みを一体的に実施するのが望ましいといわれています。

- ①デザイン責任者の経営チームへの参画
- ②事業戦略・製品・サービス開発の最上流からデザインが参画
- ③「デザイン経営」推進組織の設置
- ④デザイン手法による顧客の滞在ニーズの発見
- ⑤アジャイル型開発プロセスの実施
- ⑥採用及び人材の育成
- ⑦デザインの結果指標・プロセス指標の工夫

同研究会では、これから「デザイン経営」に取り組む企業に参考になるよう、国内外の企業における「デザイン経営」成功事例を取りまとめました。

政策提言 5 つの切り口

同研究会は、「デザイン経営」を推進し、日本の産業競争力を強化するために、政府が実施すべき具体的な政策提言を、①情報分析・啓発、②知財、③人材、④財務、⑤行政の実施の 5 つにまとめました。

政府には、民間企業のデザインに対する意識を高め、「デザイン経営」推進のきっかけを作るとともに、意欲ある企業の取り組みを制度面から後押しする役割が期待されています。

※「デザイン経営」宣言の詳細はこちらをご覧ください。

<http://www.meti.go.jp/press/2018/05/20180523002/20180523002-1.pdf>

■第 7 回国際 UD 会議開催概要

古瀬敏理事長より、2019 年 3 月にタイ王国首都バンコクで開催予定の「第 7 回国際 UD 会議 2018-2019 in バンコク」について説明がありました。

これまで過去 6 回の国際会議はすべて日本国内で開催してきましたが、第 7 回目となる今回は初めて国外に場所を移し、歴史的に我が国との関係も深く、アセアンでの中心的な存在でもあるタイ王国で開催します。

今回の会議では、国連が 2030 年までの達成目標とする「持続可能な開発目標」に呼応し、「ユニヴァーサルデザインによる持続可能な発展」をメインテーマに、自動車産業をはじめ多くの日本法人の進出によるタイ国内の産業振興と雇用の創出など、内外の参加者の活発な意見交換と相互交流を通して、自発的かつ持続的な行動を促しつつ、地域振興や医療介護ビジネス、そして観光産業の育成も視野に入れ、ASEAN 圏域における質の高い UD 社会の実現をめざします。



古瀬理事長

※「第 7 回国際 UD 会議 2018-2019 in バンコク」論文を募集中です。詳細はこちらをご覧ください。<https://www.iaud.net/conference/ud2018/10266/>



学生らしい斬新な住まいと暮らし方を提案

第2回 IAUD 住宅コンペ「UD プラスの家～『ゼロからつくる日本の住まい』を考える～」開催

誰もが心豊かに暮らせる住空間づくりを目標に、「UD プラス」の考えを推進している住空間プロジェクトは、学生の皆さんにフレッシュで斬新な住まいと暮らし方の提案を募る第2回 IAUD 住宅学生コンペ「UD プラスの家～『ゼロからつくる日本の住まい』を考える～」を今年も開催します。

UD プラスの趣旨に沿っていることを前提に審査し、グランプリには賞金 5 万円が授与されます。

応募締め切りは 10 月 1 日(月)です。大学、専門学校の学生対象で、個人、グループは問いません。皆様の応募をお待ちしております。



第1回 IAUD 住宅学生コンペ表彰式の様子
(東京・秋葉原)

※詳細はこちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/activity/10134/>

※第1回 IAUD 住宅学生コンペ各受賞作品の紹介及び審査委員の講評はこちらをご覧ください。<https://www.iaud.net/activity/9371/>

※第1回 IAUD 住宅学生コンペ開催報告を掲載した Newsletter vol.10 第9号(2017年12月号)はこちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/newsletter/9424/>

※第1回 IAUD 住宅学生コンペ表彰式開催報告を掲載した Newsletter vol.11 第1号(2018年4月号)はこちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/newsletter/9754/>

UD をユーザーと共に考え、デザインする

「第13回 48時間デザインマラソン ワークショップ in 東京」参加者募集のご案内

IAUD ワークショップ委員会は9月6日(木)から9月8日(土)の3日間、UDを生活者と共に考え、具体的なデザイン開発とプレゼンテーションを行う「第13回 48時間デザインマラソン ワークショップ in 東京」を芝浦工業大学芝浦キャンパス(東京・芝浦)で開催します。

今回のテーマは「応援 -Cheer for everyone-」。48時間という限られた時間で、企業のデザイナーやエンジニアが障害者とフィールドワークでの気づきをデザイン、検証します。

現在、IAUD 会員やデザイナー、エンジニア、メーカー、プランナー、研究者を対象に参加者を募集しております。

募集期間は8月10日(金)までです。どうぞ奮ってご参加ください。



第12回プレゼンテーション会場
(東京・芝浦)

※詳細はこちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/48hdm/10193/>

※「第 12 回 48 時間デザインマラソンワークショップ in 東京」開催報告を掲載した Newsletter vol.10 第 7 号(2017 年 10 月号)はこちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/newsletter/9220/>



2018 年 8 月の予定

月	火	水	木	金	土	日
		1 14:00～ 移動空間 PJ @Freee	2 14:00～ 衣の UDPJ @IAUD サロン	3	4	5
6	7	8	9	10 「第 13 回 48 時間 デザインマラソン ワークショップ in 東京」 参加者募集締切	11	12
13	14	15	16	17	18	19
IAUD 事務局・ サロン夏季休業						
20	21	22	23 13:00～ 標準化研究 WG @IAUD サロン	24	25	26
27	28	29	30	31 13:30～ 研究部会 @富士ゼロックス 「IAUD 国際デザイ ン賞 2018」 第 1 次審査応募 締切		

次号は 9 月上旬発行予定

特集:「IAUD アワード 2017」受賞紹介⑤ほか

IAUD 情報交流センター(IAUD サロン):

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階

電話:03-5541-5846 FAX:03-5541-5847 e-mail:info@iaud.net